

令和6年度 「SSH 講演会 ③」

- [目的] 大学の講義に直に触れ、学問に対する知的好奇心を高め、学術研究への意欲を啓発する。また、進路及び将来の目標実現に向けて、日々の学習に対する意識を喚起する。
- [実施日] 令和7年2月6日（木） 本校 視聴覚室
- [参加者] 1学年 理数科予定者 30名
- [講師] 東北大学大学院 生命科学研究科 教授 渡辺 正夫 氏
- [テーマ] 演題「高校での理数探究が、大学・大学院での研究につながる」



[生徒感想]

- 自分の進路は人生の道のりを整理して自分で決めるべきだとわかりました。また、冬休みにやった課題は課題研究ではなくただの調べ学習だとわかりました。課題研究と調べ学習の区別をしっかりとしたいです。
- 高校の理数探究は、大学での研究にも繋がるのがよく理解できた。課題研究は色々な面から物事を見て、実験したり調べていかなければいけないことは知っていたけれど、どんな風に考えれば良いか想像がついていなかったのも、求められることがわかった。
- 人生の大きな分岐点は日常にも散りばめられているとわかりました。自分が普段から何をしたいのかを考えて、いろんなことに取り組んでいきたいと思っています。

- すぐ答えを見るのではなく似ているものを探し考えるという過程が大切だということを学びました。英語の成績が下がっているので論文を読むためにもできるようにしたいと思います。課題研究における重要な作法について知れたので、それを活かして理数探究に臨みたいです。
- 理数探究をする意義やその具体的な方法がわかった。研究の中で失敗することは問題なくて、その後またリトライすることが大事だとわかった。様々なものに興味を持って生活していきたい。
- 理数探究について、過去の研究などを見たり、いろいろなことを想定しながら課題を決めたいということなど、参考になることをたくさん知れたのがよかったです。来年、誰とどんな探究をするかはまだよくわかってないけど、今日のことを参考にできたらいいと思いました。
- 基本的な探究の仕方を詳しく知ることができて来年から始まる理数探究の参考になったし、平均の話など今まで気にしてこなかったことに関しても確認することができたのでよかったです。将来的な大学のこともいろいろ知れて、為になりました。
- 将来や今後の参考になった。非常に興味深かったし、悩んでいたこともスッキリしたからよかった。
- 自分は、失敗することが怖くて、あまり積極的に挑戦しない人間だけど、今日の講演会からは失敗を恐れず、挑戦していくことを大切に生きていきたいと考えました。
- 課題研究をどのように行えば良いのか何に気をつければ良いのかがわかりました。テーマの設定ではそれにした理由、実験方法はそれによって何がわかるのかなどをしっかりと考えて探究に臨みたいと思いました。

「総合研究発表会」に参加しました！！

2月6日(木)に青森県総合学校教育センターにおいて、令和6年度「進学力を高める高校支援事業」総合研究発表会が行われました。これは、県内の高校で行われている様々な課題研究等の成果発表を一堂に会して行うもので、12チームが参加しました。本校2年理数科からは、物理班の「新しい形状のうちの探究」と化学班の「廃棄物からつくる石けん」の2チームが参加し、4月から取り組んできた理数探究の成果を発表しました。今回の発表会では農業高校、商業高校、工業高校、水産高校の発表もあり、内容もさることながら、発表の仕方やプレゼンテーションの仕方が素晴らしく、参加者は大変刺激を受けることができました。

